

「妻サラの死と埋葬」

2021年02月12日

サラは、カナンの地のキルヤト・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムはサラのところに行き、その死を悼んで泣いた。(創世記 23 章 2 節) アブラハムはエフロンと言うとおりにした。アブラハムはエフロンに商人の通用銀で四百シェケルを量って支払った。それはヘトの人々が聞いているところで彼が支払った代金の額である。(創世記 23 章 16 節)

アブラハムの妻サラは、127 年生きて、ヘブロンで、生涯を終えた。アブラハムはサラの死を悼んで泣いた。アブラハムは神から、「私が示す地に行きなさい」と召し出された時、これに従い、行き先を知らずに出て行った。サラは、それに追従した。カナンの地で、家畜を追う放浪の生活は過酷であったろう。子どもが生まれぬことに悩み、夫を女奴隷ハガルに与え、イシュマエルを産ませた。ハガルに嫉妬し、イシュマエルがイサクと遊ぶのを見て、イシュマエルは相続する者ではないと、非情にも母子を追い出した。サラの意思や感情表現は少ないが、I ペトロ書 3 章 6 節に「サラは、アブラハムを主人と呼んで、彼に従いました」と書いているように、夫に従順に仕えた生涯であったことに違いない。アブラハムにとって、サラは誰よりも信頼できる、かけがえのない妻であった。彼女の死を悼み、泣いた。イスラエルの男性は、人前をはばかり泣く。ダビデは苦悩の中でしばしば泣いている。主イエスも、二回泣いている。アブラハムはサラの遺体の前で、自分の半身を失うような痛みの中で、大泣きしたのではないか。

アブラハムは悲しみから立ち上がり、ヘトの人々に、サラを葬る墓地を譲ってほしいと丁寧に語りかけた。ヘトの人々は、「お聞きください、ご主人。あなたは私どもの中で神のように優れたお方です。どうぞ、私どもの墓地のいちばん良い所に、亡くなられた方を葬ってください。私どもの中には、自分の墓地を差し出さず、亡くなられた方を葬らせない者など一人としていないでしょう」と答えた。アブラハムは大きな信頼を集めていた。寄留者、よそ者は気嫌いされ、排除されるのが普通であったが、アブラハムの場合は、彼の生き方、振る舞いが他部族の人々に神のよう優れた人と見られていたのである。アブラハムは喜び、「ツォハルの子エフロンに頼んでみてください。彼の畑の端にあるマクペラの洞窟を譲っていただきたいのです。十分な代価をつけてお支払いしますので、あなたがたが所有しておられる墓地を譲ってください」と申し出た。エフロンは、このヘテの人々の中に座っていた。アブラハムの墓地取得のための交渉が始まる。エフロンは、皆の前で、一族の立ち合いの下、畑地、洞窟は差し上げるので、亡くなった方を葬ってくださいと、気前のいいことを言う。アブラハムは皆の前で感謝し、ひれ伏し、畑地の代金は支払うと応じた。するとエフロンは、「ご主人、お聞きください。土地は銀四百シェケルです。それが私とあなたの間で何ほどのものでしょう」と言った。差し上げると言ったのに、銀 400 シェケルと高額を付け、二人の間では、何ほどのものでもない、計算高いカナン人の本音をむき出しにした。アブラハムは町の門に集まったヘト人の見ているところで、言値の代金を量って、エフロンに支払い、買い取った。アブラハムは金品に清潔で、礼儀正しい。また、多くの財産を持つ族長であった。それゆえに周りの部族の人々に敬意をもたれ、信頼されたのではないか。この土地はカナンで買い取ったアブラハムの唯一の所有地である。マクペラの洞窟に愛するサラを葬り、アブラハム一族の墓地になった。